

第3回 社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ

## 第3回WGの論点

2016/2/1

日本財団 藤田 滋

# 議論の切り口案

議論の切り口案	議論の内容
<b>用語の定義</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>議論の前提として、どのような用語を用い、どのように定義するか (例: 社会的インパクト評価、アウトカム、インパクト、等)</li></ul>
<b>評価主体</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>議論の範囲として、誰による評価を想定するか</li></ul>
<b>評価目的</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>評価の目的にはどのようなものがあり、どう整理するか</li></ul>
<b>評価原則</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>評価の目的を達成するために、どういった原則を踏まえるべきか</li></ul>
<b>評価方法 範囲</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>評価対象とする事業の範囲はどのように設定するか</li><li>評価対象とするステークホルダー、アウトカムの範囲はどのように設定するか</li></ul>
<b>デザイン</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>評価はどのように設計するか</li></ul>
<b>プロセス</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>評価はどのようなプロセスに沿って実施するか</li></ul>
<b>報告・開示項目</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>どういった情報を報告・開示するか</li></ul>

第2回  
WGにて  
議論

本日  
議論

## 評価の方法 – 範囲に関する主な論点と海外既存ガイドライン等の状況

### 主な論点

- 目的と原則に照らして、評価対象とする事業、ステークホルダー、アウトカムの範囲はどのように設定されるか
  - 評価範囲の設定においてマテリアリティ(重要性) (**materiality**) はどのように考慮されるか
  - アウトプットの評価を社会的インパクト評価として許容するか

### 海外既存 ガイドライン等 の状況

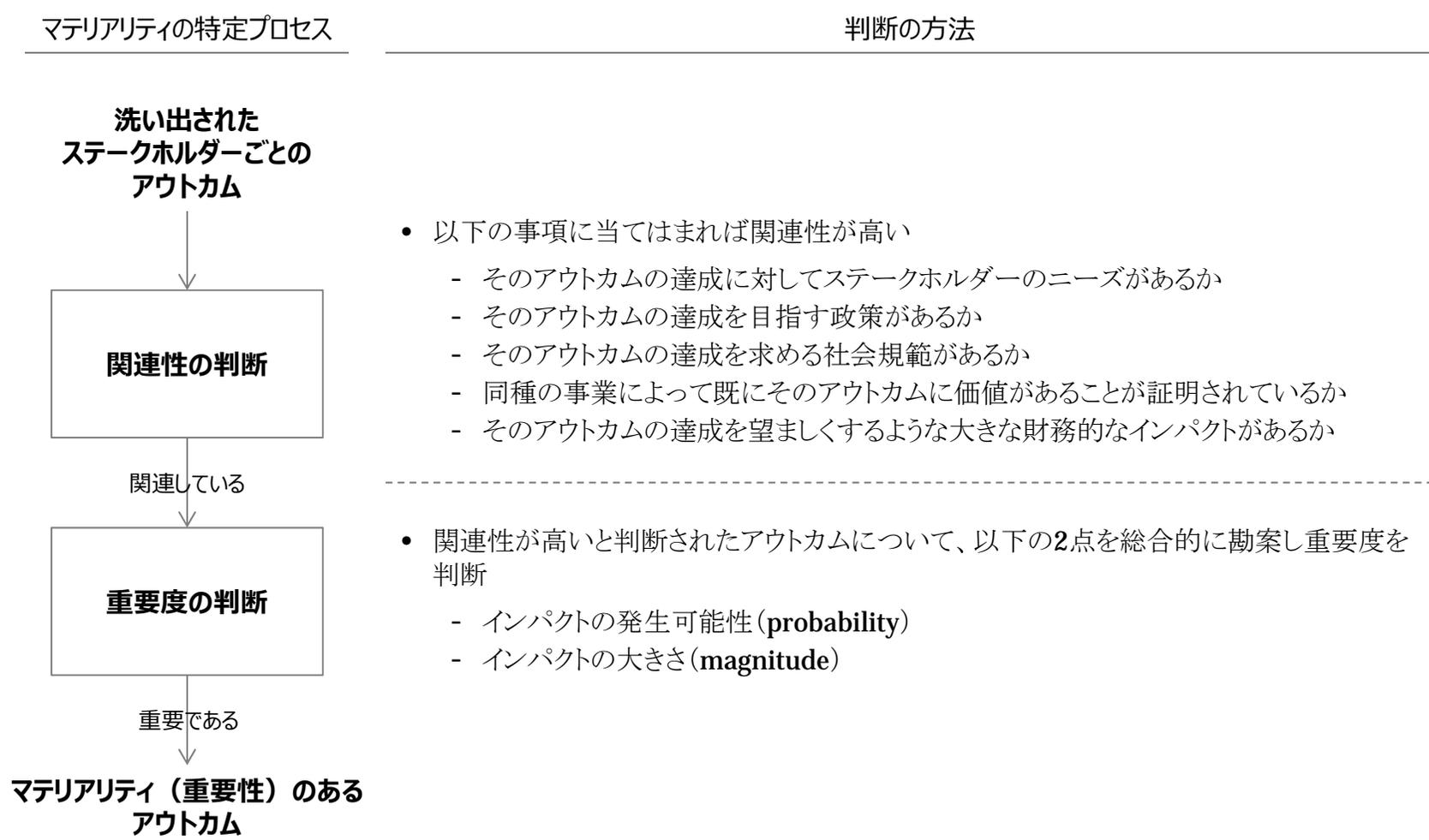
- 範囲(事業/ステークホルダー/アウトカム)の設定に関し、**SROI**はマテリアリティの特定プロセスについて別途ガイドラインを設定(次頁参照)。
- アウトプットの評価については、**NPC**は明示的にアウトプットの評価も社会的インパクト評価の範疇に含めている。
  - \* ただし、どのような場合にアウトプットの評価が許容されるかは明記なし。

### 議論の叩き台

- 評価対象とする事業、ステークホルダー、アウトカムの範囲は、マテリアリティ(重要性)に基づき設定することとしてはどうか。( \* ただし、具体的な特定プロセスは本**WG**の検討対象外)
  - 透明性の原則に基づき、特定した事業、ステークホルダー、アウトカムの範囲の根拠は、報告・開示時に明記することとしてはどうか。
  - ステークホルダーの参加・協働の原則に基づき、評価範囲については資金仲介者/提供者等のステークホルダーと事前に協議・合意することが望ましいのではないか。
- 事業の特性、評価に利用可能な資源の制約等の理由で、アウトカムの評価が困難である場合は、アウトプットの評価も許容されるとしてはどうか。
  - ただしその場合は、透明性の原則に基づき、資金仲介者/提供者と事前に合意の上、報告・開示においてその理由を明記するものとしてはどうか。

# SROIにおけるマテリアリティ（重要性）の特定プロセス

- SROIでは、マテリアリティ（重要性）の判断を、さらに「関連性（relevance）」と「重要度（significance）」に分けて判断することとしている。



## 評価の方法 – デザインに関する主な論点と海外既存ガイドライン等の状況

### 主な論点

- 目的と原則に照らして、評価のデザインはどのように選択されるか  
(一般的な評価のデザインについては参考資料3参照)
  - 事前・事後比較デザイン等の比較的簡易な手法、定性的手法のみの評価は許容されるか

### 海外既存 ガイドライン等 の状況

- EUやG8、SROIでは、評価のデザインの選択方法に関するガイドラインは明記なし。
- NPCは、望ましさ(**what is desired**)と実用性(**what is practical**)を考慮すべきとした上で、選択の際に考慮すべき事項を列挙(詳細は参考資料1を参照)。
- 定性データについては、NPC、EU、SROIは積極的にその重要性を明記。  
*"No numbers without stories; no stories without numbers." (NPC, p.28)*  
*"SROI is much more than a number. It is a story about change on which to base decisions, that includes case studies and qualitative, quantitative and financial information" (SROI, p.8)*

### 議論の叩き台

- 比例性の原則に基づき、評価のデザインは、社会的インパクトに係る情報を必要とするステークホルダーのニーズや、評価主体が利用可能な資源等に応じて選択できることとしてはどうか。(※ただし、具体的な選択基準は本WGの検討対象外)
  - 透明性の原則に基づき、選択の根拠は報告・開示時に明記することとしてはどうか。
  - ステークホルダーの参加・協働の原則に基づき、その選択については資金仲介者/提供者等のステークホルダーと事前に協議・合意することが望ましいのではないか。
- 比例性の原則を前提とした上で、できるかぎり定量データと定性データの双方を収集し、因果関係・ネットアウトカムの分析に活用することが望ましい、としてはどうか。
- 事業の特性、評価に利用可能な資源の制約等の理由で、定量的手法による因果関係・ネットアウトカムの分析が困難である場合は、専門家判断やケーススタディ等の定性的手法のみの評価も許容されるとしてはどうか。
  - ただしその場合は、透明性の原則に基づき、資金仲介者/提供者と事前に合意の上、報告・開示においてその理由を明記するものとしてはどうか。

## 評価の方法 – プロセスに関する主な論点と海外既存ガイドライン等の状況

### 主な論点

- 目的と原則に照らして、評価はどのようなプロセスに沿って実施されるか

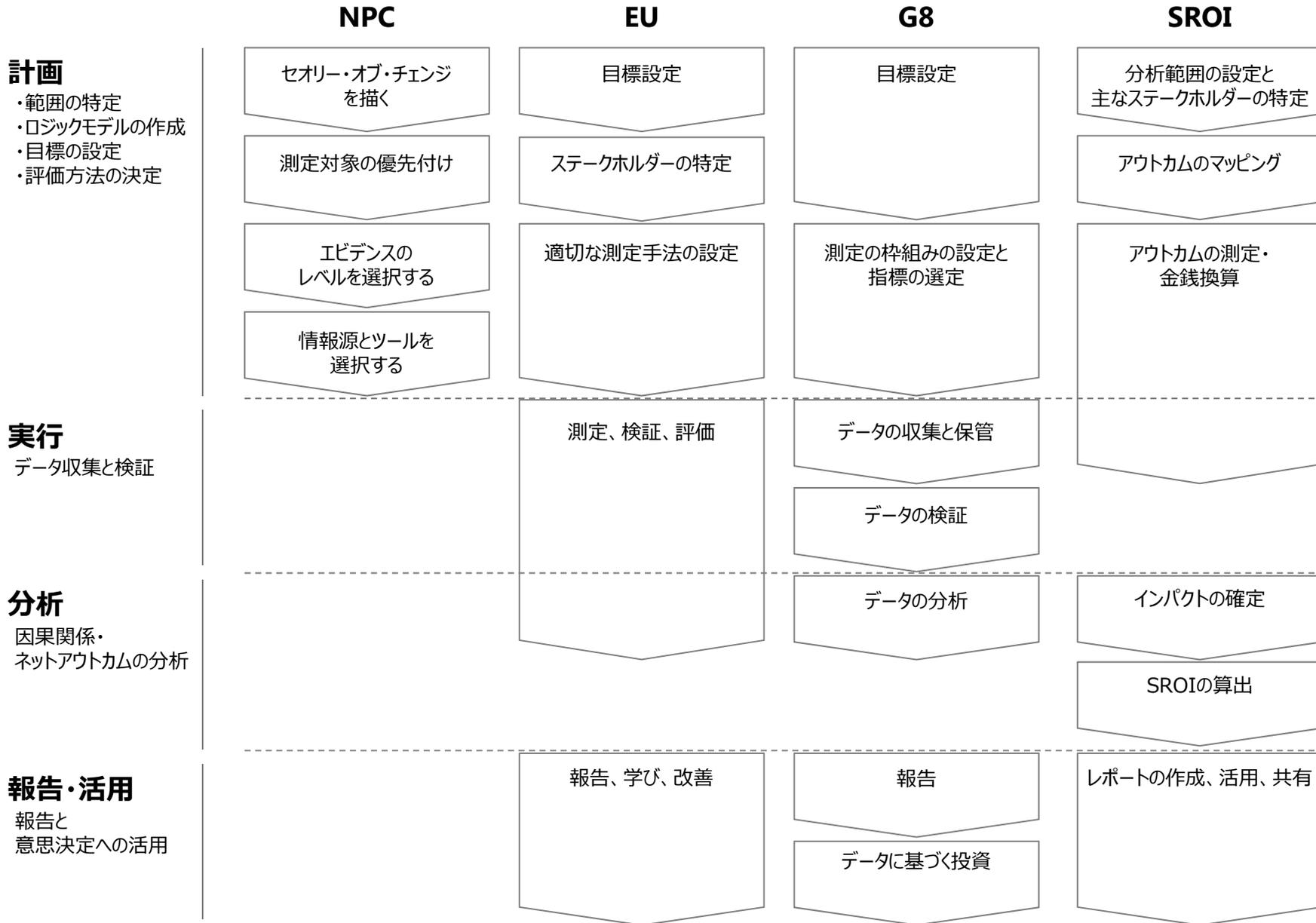
### 海外既存 ガイドライン等 の状況

- 4つのガイドラインで、おおむね評価のプロセスは収斂。
  - 大きくは、計画、実行、分析、報告・活用の4つのステップに整理可能(次頁参照)。
- なお、アウトカムの測定結果を金銭換算するステップは**SROI**の特徴。
  - **G8**は、社会的インパクト投資市場の拡大に向け、アウトカムの金銭換算を望む潮流があり、将来的にはより広がるだろうとの見解。
  - 一方、**EU**は、金銭換算は、その情報がステークホルダーにとって追加的な価値がある場合に限ってなされるべきとの立場。

### 議論の叩き台

- 評価プロセスは計画、実行、分析、報告・活用までを含むものとし、各プロセスにおいては次のような作業を行うものと整理してはどうか。
  - **計画**: 評価範囲(事業、ステークホルダー)の特定、ロジックモデルの作成(=事前のセオリー評価)、評価方法の決定(指標・データ入手方法、デザイン)、目標の設定
  - **実行**: 事前に設定した指標・データ入手方法による継続的なデータ収集
  - **分析**: 因果関係・ネットアウトカムの分析
  - **報告・活用**: 報告と意思決定への活用
- アウトカム測定結果の金銭換算はアウトカムの比較可能性を強化できる可能性があるが、本ガイドラインでは必須のステップとはしない、としてはどうか。
  - 比較可能性は、評価プロセスや報告・開示方法の共通化で最低限担保するとの立場。

# 海外既存ガイドライン等における評価のプロセス



## 報告・開示項目に関する主な論点と海外既存ガイドライン等の状況

### 主な論点

- 目的と原則に照らして、どういった情報を報告・開示項目として押さえる必要があるか

### 海外既存 ガイドライン等 の状況

- EUとSROIは、報告・開示項目を項目立てして明記(詳細は次頁)。
- SROIの方がより体系的・網羅的であるものの、両者に大きな違いはない。
- 一方で、「透明性」と「結果の検証(独立監査)」を原則とするSROIは、監査証跡として主たるステークホルダーやアウトカムの選定に係る判断の報告・開示を明記するとともに、認定評価者のピア・レビューによるレポートの認証(Assurance)プロセスを有する。

### 議論の叩き台

- ステークホルダーによる事業の理解、評価結果の信頼性の判断に必要な情報(特に前提や重要性等に係る主観的判断)を報告・開示項目としてはどうか。
  1. 組織・事業の概要、関連するステークホルダー、ロジックモデル
  2. 評価対象とする事業の範囲、ステークホルダーおよびアウトカム、その選定理由
  3. 評価の方法(評価のデザイン、アウトカムごとの指標とデータ収集方法)、その選定理由
  4. 評価の結果(アウトカムのエビデンス、ネットアウトカムの分析結果含む)
  5. 評価結果の意思決定への活用内容、アクション
- ただし、比例性の原則に基づき、ステークホルダーのニーズと、報告・開示者の負担のバランスはとることは前提としてはどうか。

# 海外既存ガイドライン等における報告・開示項目

	EU*	SROI**
組織・事業の理解に必要な情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトカムの測定対象となるステークホルダーおよびそのアウトカムの説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の範囲とステークホルダー               <ul style="list-style-type: none"> <li>組織・事業の説明</li> <li>SROI評価の目的・範囲の説明</li> <li>ステークホルダーの説明</li> <li>評価にあたってのステークホルダーの参加・協働の説明</li> </ul> </li> </ul>
評価結果およびその信頼性の判断に必要な情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの評価ステップの適用内容の説明</li> <li>指標の妥当性の説明</li> <li>介入の効果の説明(受益者、アウトカム、および死荷重(deadweight)、寄与率(attribution)、置換効果(displacement)、ドロップオフの説明含む)               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 死荷重等については、最低限、定性的な説明が必要</li> </ul> </li> <li>介入と効果との因果関係の説明(セオリー・オブ・チェンジ/ロジックモデルの説明含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトカムとそのエビデンス               <ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーごとのセオリー・オブ・チェンジの説明(ケーススタディ等の定性的な説明含む)</li> <li>アウトカムごとの指標とデータの入手方法の説明</li> <li>インプット、アウトプット、アウトカムの測定結果</li> <li>ドロップオフの説明</li> <li>アウトカムを貨幣換算するための財務的代理指標の説明</li> </ul> </li> <li>インパクト               <ul style="list-style-type: none"> <li>死荷重、寄与率、置換効果の説明</li> </ul> </li> <li>SROIの計算結果</li> <li>監査証跡               <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象に含めなかったステークホルダーの説明、除外の理由</li> <li>評価対象に含めなかったアウトカムの説明、除外の理由</li> <li>含めなかった財務的代理指標の説明、その理由</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>(もし有用で可能な場合)定量的な社会的・財務的リスク(発生可能性やその影響、感度分析の結果、等)の説明</li> </ul>	

\* EU "Approaches to Social Impact Measurement" p.31

\*\* SROI "A Guide to Social Return on Investment" p.82-83